

平成 29 年度 学校経営計画及び学校評価

1 めざす学校像

■ めざす学校像

「健全な市民を育成し、中河内を活性化する有為な人材を輩出する中堅校として、地域から厚く信頼される学校」をスローガンに以下の5点をめざす。

- ①「18歳での進路実現！」を目標に充実したキャリア教育を実践する総合学科
- ②「社会人基礎力（前に踏み出す力、考え抜く力、チームで働く力）」を育成する総合学科
- ③「基礎・応用・実践力の養成」を目標に授業で鍛える総合学科
- ④「共生推進教室でインクルーシブ教育」を実践する総合学科
- ⑤「地域に開かれた魅力ある学校」を目標に地域社会と連携・協力する総合学科

2 中期的目標

今後の3年間で、学校のシステムや教職員の意識改革の結果を出す3年間と捉え、以下の5点を学校の中期的目標とする。

1. 「18歳での進路実現！」を目標に充実したキャリア教育を実践する総合学科

(1) 中退率の減少 …生徒の基本的な生活習慣や中高連携の緊密化、スクールカウンセラーの活用等を通して中退防止に努める。

※今後3年間で中退率府平均 1.7%以下（平成 28 年度 2.6%）を目標とする。

(2) 進路未決定者の減少 …進路未決定率が 7.4%（浪人生を除く）と 2 年連続で 8%以下になった。学校経営推進費を活用した「未来創造室」の活用と新たに作成した「樟風マップ」に基づき、10 年後の自分を見据えたキャリア教育を実践して生徒の進路意識を高める。

※進路未決定率 7.4%（平成 28 年度）を毎年 1%ずつ減らし平成 31 年度には 5%以下とする。

(3) 就職決定者の増加 …「未来創造室」の活用とキャリア教育の充実によって、就職指導を一層充実させる。

※就職内定率 100%（平成 28 年度）を毎年維持する。とくに就職試験一次合格者を 75%以上（平成 28 年度 74.6%）とする。

(4) 中堅私立大学進学の実現 …「未来創造室」の活用と補講等の充実により、進学希望者をサポートする。

※平成 29 年度以降も毎年 10 名以上の中堅私立大学合格者を輩出する（平成 28 年度 15 名）。

2. 「社会人基礎力（前に踏み出す力、考え抜く力、チームで働く力）」を育成する総合学科

(1) 公共心と規律性を備えた樟風生を育てる …重点的に取り組むことは、①授業規律②欠席・遅刻指導③服装・頭髪指導④あいさつの 4 点である。

※遅刻者総数については、平成 29 年度から現状の 1 割減を毎年推進し、平成 31 年度には年間遅刻者数 1000 以下をめざす。

※平成 28 年度は 55.9%だった生徒向け学校教育自己診断の全般の項目に関する肯定感の平均を毎年 3 ポイント以上向上させ、平成 31 年度には肯定感 65%以上をめざす。

(2) クラス活動で鍛える …体育祭・文化祭等の行事を通じてクラス活動の活性化を行う。

※生徒向け学校教育自己診断において、平成 28 年度は 51.1%だった「クラス活動は活発である」の肯定感を毎年 3 ポイント以上向上させ、平成 31 年度には肯定感 60%以上をめざす。

(3) 生徒会活動で鍛える …毎日の挨拶運動や学校行事の企画・運営など現在の生徒会執行部の活動を継続・強化していく。

※生徒向け学校教育自己診断において、平成 28 年度は 49.4%だった自主活動に関する項目の肯定感の平均を毎年 3 ポイント以上向上させ、平成 31 年度には肯定感 60%以上をめざす。

(4) クラブ活動で鍛える …平成 28 年度のクラブ加入率は 43.2%と前年度より上昇した。平成 29 年度からも体験入部の工夫や積極的な勧誘によって新入生のクラブ加入率を高めていく。

※クラブ加入率を毎年 3 ポイント以上向上させ、平成 31 年度には、50%以上をめざす。

3. 「基礎・応用・実践力の養成」を目標に授業で鍛える総合学科

(1) 授業で鍛える …生徒向け学校教育自己診断の学習指導に関する肯定感の平均が平成 28 年度は 52.6%という状況を踏まえ、研究授業の活性化、授業アンケートの活用、公開授業、教員同士の授業観察等により教員の授業力の向上をめざす。

※生徒向け学校教育自己診断における学習活動の肯定感の平均を毎年 3 ポイント以上向上させ、平成 31 年度には 60%以上の肯定感をめざす。

(2) 7 系列で鍛える …7 つの系列のさらなる個性化を促進する。また、系列での地域貢献を推し進めるとともに、外部講師等を積極的に活用する。

※生徒向け学校教育自己診断において、平成 28 年度は 62.9%だった「授業は自分のためになっている」という項目を毎年 3 ポイント以上向上させ、平成 31 年度には 70%以上をめざす。

4. 「共生推進教室でインクルーシブ教育」を実践する総合学科

(1) 共生推進教室でインクルーシブ教育を実践する …学校経営推進費を活用して創設したインクルーシブ・ルームを有効に活用して、インクルーシブ教育を実践するとともに、「ともに学び、ともに育つ」をコンセプトに学習活動や部活動、学校行事等においてインクルーシブ教育システムを構築する。

※生徒向け学校教育自己診断において、平成 28 年度は 51.8%だった共生推進に関する肯定感の平均を毎年 3 ポイント以上上昇させ、平成 31 年度には 60%以上の肯定感をめざす。

(2) 人権教育で鍛える …同和問題や在日外国人問題など人権 HR を充実させることで生徒の人権意識を育む。

※生徒向け学校教育自己診断において、平成 28 年度は 52.0%だった人権教育に関する肯定感の平均を毎年 3 ポイント以上上昇させ、平成 31 年度には 60%以上の肯定感をめざす。

5. 「地域に開かれた魅力ある学校」を目標に地域社会と連携・協力する総合学科

(1) 地域貢献で鍛える …幼・保・小・中・大だけではなく、東大阪市子育て支援センター・公民館・瓢箪山商店街・ロータリークラブ・農協・大阪府中小企業家同友会等とのコラボレーションを促進する。また、縄手北ふれあいネットワーク、瓢箪山まちづくり協議会、枚岡中学校区地域教育協議会、東大阪市まちづくり意見交換会などに積極的に参加することで地域貢献を推し進め、地域から信頼される学校をめざす。

※生徒向け学校教育自己診断において、平成 28 年度は 49.6%だった地域連携に関する肯定感の平均を毎年 3 ポイントずつ押し上げ、平成 31 年度には 60%以上の肯定感をめざす。

(2) 家庭との連携 …家庭との連携を密にするとともに、学校行事や P T A 活動への保護者の参加率を高める。

※保護者向け学校教育自己診断において、平成 28 年度は 45.2%だった参画に関する肯定感を毎年 3 ポイントずつ押し上げ、平成 31 年度には 55%以上にする。

(3) 校内組織の連携と情報発信力の強化 …各種会議と分掌・学年間の連携を強化するとともに、中高連携や学校説明会などの広報関係に力を入れる。

※教職員向け学校教育自己診断において、平成 28 年度は 56.5%だった学校経営の肯定感平均を毎年 3%ずつ引き上げ、平成 31 年度には 65%以上にする。

【学校教育自己診断の結果と分析・学校協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析 [平成 29 年 11 月実施分]	学校協議会からの意見
<p>【総論】 ○昨年度と同様に教職員の努力の結果、生徒の遅刻の激減、頭髮・服装違反の減少、授業規律の確立など、生徒の学校生活はよくなっている。 ○学校教育自己診断の提出率は、生徒は H28 年度の 88.4%から 94.8%に上昇した。保護者は H28 年度の 49.4%から 48.0%に微減した。教職員は 100%であった。 ○生徒においては、すべての項目について肯定感が上昇した。分類別で見ると、特に美化活動、人権教育、共生推進、教育相談は 10%以上上昇した。昨年度よりも実際に力を入れて取り組んだ結果の現れであると考えられる。 ○保護者においては、ほとんどの項目が現状維持か 5%以内での微減であった。様々な取り組みを保護者に確実に伝えることが必要である。 ○教職員においては、2/3 の項目で肯定感が上昇した。分類別にみると、特に生徒指導と保健がかなり上昇している。 ○教職員間での課題の共有化と職員会議等での議論の活性化が、今後も継続していくことが有効である。</p> <p>【学校経営】 ○全般的に昨年度とほぼ同じ数値である。 ○学校運営に教職員の意見が反映されているのは 65.2%、教職員が意欲的に取り組める環境になっているのは 49.3%で、昨年度より上昇した。学校運営に教職員の声が活かされている。 ○各分掌や各学年間の連携は 35.3%と肯定感がさらに低くなっている。今後も連携を強化していく必要がある。</p> <p>【学習指導】 ○生徒においては、8 項目中 6 項目が上昇し、平均も 6.8%も上がっている。特に、教え方に、様々な工夫をしている先生が多いが 57.1%と昨年度より 10.5%上昇している。研修や授業見学をこれからも続けたい。 ○保護者においては、全項目について微減している。学校の様子がしっかり伝わっていないようなので、保護者との連携を今後も強めていく必要がある。 ○教職員においては、全体的に肯定感が上昇している。特に、学習指導について各教科で話し合っている、ICT 機器の活用、他の先生の授業を見学に行く機会があるが 10%上昇している。教職員がパッケージ研修において各教科で代表の授業を行ったり、全 HR 教室にスクリーンがまたインクルーシブ教室に最新の機器が設置されている、授業見学習慣が設定されていることを活用していることが大きな効果を発揮しているのではないかと。今後も研修や ICT 機器の充実、授業見学習慣の充実に努め、授業力の向上をめざす。</p> <p>【生徒指導】 ○教職員の日々の指導と努力の結果、遅刻の激減、頭髮・服装違反者の激減、授業規律の確立がなされ、生徒たちが落ち着いた学校になった。 ○生徒においては、8 項目中 4 項目で肯定感が増加している。学校生活での基本的習慣の確立に力を入れていること、教職員が協力して生徒指導にあたっていることなど、日々の取り組みの積み重ねが反映されている。今後もさらに全教職員で生徒指導に取り組んでいく。 ○保護者において、全体的には昨年とほぼ同じであった。ただ、方針に共感ができるが 4.5%減少し 65.6%となった。機会あるごとに保護者へ生徒指導について説明していく。 ○教職員の生徒指導に関する肯定感は昨年度に比べて、10%増加し 82.4%であった。これからは挨拶運動をはじめプラスの生徒指導を全教職員で取り組んでいく。</p> <p>【自主活動】 ○生徒の肯定感は 10%上昇したが、保護者、教職員では微減した。生徒にとっては、学校行事が楽しく、主体的に行われていると一定満足している。保護者及び教職員にとっては、新たな工夫が必要であると感じていることが要因か。</p> <p>【進路指導】 ○学校斡旋就職 1 次内定率は 90%を超えた。生徒と教職員の努力の結果である。 ○生徒の肯定感は全体的に上昇した。年々計画的な進路指導の成果が表れている。保護者の肯定感は微減しているが、それでも肯定感は 70%を超えている。 ○教職員の肯定感は 90%を超えている。これは、教職員の熱心な指導が就職内定率の上昇や進路未決定率の減少などにつながっていることに要因がある。 ○未来創造室の利用が 47.3%と昨年度よりは 8%上昇しているが、さらに活用していくようにする。</p> <p>【地域連携】 ○生徒においては肯定感が 5%上昇、保護者・教職員は昨年度とほぼ同じ。</p>	<p>第 1 回 (6/17)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 保護者からの意見書の提出状況について：なし 2 本校の現状と課題についての説明 <p>○遅刻数は 1600 台に激減、中退率 2%台、進路未決定率 7%台、中堅大学への進学など、本校も大変安定してきている。 ○平成 29 年度入試の志望倍率について。 ○今年度、「地域に開かれた魅力ある学校を目標に地域社会と連携教育する総合学科」を学校経営計画に加えた。 ○挨拶運動を全校をあげて進めている。 ○台湾の高校生との国際交流についての報告 ○1 年生による母校訪問の状況を報告 ○パッケージ研修による授業力の向上について取り組みの報告 ○PTA 活動の充実、学校広報活動について取り組みの報告 ○教育課程（週あたり時間数）の改編について報告 ○授業規律の確立について、マイナスからプラスの生徒指導へ移行 ○行ける大学から行きたい大学への実績及び意識の向上 ○1 年生：遅刻の減少への取り組みについて ○2 年生での朝学、インターンシップへの取り組みについて ○3 年生：進路指導方針についての報告 ○人権学習における障がい者理解、異文化理解の取り組みについて報告 ○共生推進教室の卒業生就労 100% ○生徒会：体育祭、文化祭について。指導の引継ぎについて</p> <p>3 学校協議会からの意見・提言等 【平成 29 年度入試について】 ○志望倍率が 1.03 倍にまでされたのは、先生方の細やかな指導が徐々に浸透した結果と感じる。 【様々な進路の実現】 ○先生方が情熱をもって毎日生徒を指導されているのがよくわかる。 【地域との連携】 ○学校を知っていただくためにも地域連携を進めてください。 ○生徒の作品がアピールにつながっている。 ○旭町子育て支援センターとの交流に来る生徒が落ち着いてきた。今後お願いします。 【挨拶運動】 ○遅刻減少の次の取組として大切と考える。 【3 年生の欠席】 ○みんなで卒業という雰囲気作りが大切である。 【共生推進教室 100%就労】 ○すばらしい。今後も継続してください。 【さらに努力を】 ○遅刻、退学、進路未決定を安定させてきましたが、気を緩ませずにさらに努力をしてください。 ○マイナスの指導からプラスの指導はとても大事なことです。 ○体育祭での指導について、子どもたちにわかるように説明することが大切ではないでしょうか。 【保健室の来室者について】 ○何か気になることを抱えた生徒だと思うので、保健室で話を聞いてあげてください。 【避難訓練について】 ○地域の方と連携しての訓練ができればよい。 【いじめについて】 ○いじめがないか、周りに注意を払ってください。 【新しい視点で】 ○校長が新しく来られました。新転任者の先生方の意見を取り入れて、全員で協力して学校運営を行ってください。</p> <p>第 2 回 (11/16)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 保護者からの意見書の提出状況について：なし 2 授業見学 3 平成 29 年度学校経営計画の進捗状況について教頭より説明 <p>【進路指導の充実について】 ○教職員の熱心な指導により、就職試験一時合格率 92.6%とかなりの高い合格率となった。 ○教職員の努力により、2 年生のインターンシップ参加者数は 132 名となった。 【生徒指導の充実について】 ○イエローカードの効果的な運用により、授業規律の徹底が生徒の間に浸透している。 ○毎日の遅刻指導の継続により、基本的な生活習慣の確立をめざす。 ○事例検討会を行い教職員の指導の基準の統一化 【地域連携の充実について】 ○各系列における地域連携の実践。</p> <p>4 学校協議会からの意見・提言等</p>

各系列の授業での地域の方たちとの交流が進んでいることと、クラブ員による校外清掃等が生徒に定着してきていることの表れである。

○今後も地域の学校園や商店街・企業等との関係を重視して、地域から信頼される学校づくりをしていきたい。

【保健指導・安全教育・美化】

○生徒においては保健指導・安全教育・美化活動いずれも10%以上上昇している。保健指導部を中心に教職員の努力の成果が表れている。保護者は76.2%、教職員は84.0%で平均値は高くなっている。施設の老朽化などの問題もあるが、今後も日常清掃の徹底を続けていく必要がある。

【人権教育・教育相談】

○生徒においては人権教育・教育相談ともに10%以上上昇している。これは計画的に人権学習がHR等で行われていることとスクールカウンセラーの活用を中心とした教育相談体制の充実の表れである。保護者は昨年度とほぼ同様、教職員は人権教育が72.8%、教育相談が84.6%と高い平均値であった。

【共生推進】

○平均値は生徒においては10%上昇し62.2%、保護者は昨年とほぼ同じ83.2%、教職員は90.2%と高い数値となっている。これは本校の共生推進教室の「ともに学び、ともに育つ」というコンセプトが浸透し、インクルーシブ教育が行われていることの表れであるといえる。

○共生推進教室の生徒はクラブ活動にも参加し、公式戦に出場するなど学校生活の中で鍛えられている。

○インクルーシブ・ルームを有効に活用して、今後も大阪府のインクルーシブ教育のモデルとなるような実践に励んでいきたい。

【全般について】

○進路指導、生徒指導、地域連携について先生方はよくやられている。

【地域連携について】

○地域連携で活躍する枚岡樟風生を見て、微笑ましく感じている。これは先生方の努力があつてのことと感じている。

○共生推進教室の生徒が保育実習でよく頑張ってくれた。

【クラブ活動について】

○軽音楽部の全国大会出場や農業クラブの近畿大会での活躍はよい広報につながる。

【化粧について】

○保育実習で、小さな子供たちが赤い口紅に驚いて泣くので、協力して指導していきませんか。

【授業について】

○先生も生徒も前向きで、授業の内容も一歩も二歩も前進されている。

○生徒が明るく、素直で、クラスの雰囲気もよい。

○ICT機器を活用されて、新しい授業にチャレンジされている。

【施設について】

○廊下の照明をLED化され、大変明るくなった。

○古い建物だが、きれいに大切に使われている。

【樟風タオルについて】

○PTAで作った「樟風タオル」は母校愛を育む効果がある。

【今後について】

○生徒が担任と一つひとつ課題を解決しながら、自ら考え行動し、将来の進路を考えるようにしてください。

○SNSの危険性を先生方も認識してください。

第3回（2/16）

1 保護者からの意見書の提出について：なし

2 分掌長、学年主任等、運営委員会のメンバーからの現状報告

学校協議会からの意見・提言等

①学校としての取り組みが発展してきており、いろいろなアイデアも出てきている。これまで継続してきたことは必ず評価されますので、頑張ってください。

②個人情報の取り扱いについて、先生方くれぐれもよく注意していただきたい。

③遅刻指導、服装指導、ルールを守るなどの指導をされていることは素晴らしい。

④共生推進教室の生徒が生き生きしている。就職も決定しており、取り組みが成果を表している。

⑤文化祭でのキッズスペースの取り組みを今後も一緒に行いたい。

⑥もう少し子どもたちの意見を聞いてあげてほしい。もっと子どもたちが分かるように指導していただきたい。

⑦生徒たちが、この学校大好き、この先生大好き、この学校大事にしようという気持ちが生徒指導の歯止めとなるようにしていくのが次の段階である。

3 学校教育自己診断の結果及び分析について教頭より説明

学校経営、学習指導、生徒指導、進路指導、自主活動、保健活動、美化活動、安全活動、PTA活動、人権教育及び共生推進教室、地域連携等について

4 平成29年度学校経営計画及び学校評価について教頭より説明

【進路指導について】

○就職一内定率の増加、インターンシップ参加者の大幅な増加

【社会人基礎力について】

○遅刻者の減少、クラス活動及び生徒会活動の肯定感増加、授業についての生徒の肯定感増加

【インクルーシブ教育及び人権教育について】

○インクルーシブ教育が生徒間に定着、人権教育について生徒の肯定感増加

【地域連携について】

○新規の地域連携の増加

5 平成30年度学校教育計画について校長より説明

①生徒の自己有用感、自己効力感を育成する学校

②生徒が新たな可能性に出会える学校

③生徒による学校活性化プロジェクト

学校協議会からの意見・提言等

①各項目とも右肩上がりで上がっている。特に地域貢献は生徒が活躍しているのをよく見かける。

②総合学科の意義や良さ及び遣り甲斐を先輩の先生方が新しい先生方に伝えてください。

③周年行事を生徒たちが前面に出てくるような形態をめざし、先生方が一致団結して取り組んでいただきたい。

6 校則について

【頭髪指導について】

○本校は地毛を原則とし、染色、脱色、パーマメント等の加工を禁止する。

学校協議会からの意見・提言等

①完全下校の時刻について②単車の免許取得について③ケータイの指導について④懲戒にSNS関係の事案が占める割合について⑤女子生徒の化粧指導について⑥スカートの下のジャージについて質問があった。

3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標	自己評価
<p>1. 「18歳での進路実現」を目標に充実したキャリア教育を実践する総合学科</p>	<p>(1) 基礎学力の向上、中高連携の強化、教育相談委員会の活動などにより中退率を減少させる</p> <p>(2) 進路未決定者の減少</p> <p>(3) 就職決定者の増加</p>	<p>(1) 中退防止 ア. 毎月開催される教育相談委員会に中退防止の視点を加え、保健室来室状況から中退予備群生徒をリストアップし、原因克服に対応する。 イ. 家庭連絡、家庭訪問の状況、家庭状況の把握等を丁寧に行い、場合によっては社会福祉施設等との連携を行う。 ウ. 定期的な中高連携に留まらず、時期を逸しないように中学校との連携を強化する。 エ. 中退防止コーディネーターを教育相談担当(人権担当)に充て、校内の取りまとめと学校外への窓口を充てる。</p> <p>(2)(3) 進路未決定者の減少と就職決定者の増加 ア. 学校経営推進費を活用した「未来創造室」を有効に利用して、進路未決定率を毎年3%ずつ減少させる。 ①「未来創造室」を活用して、進学や就職の資料閲覧やインターネットでの検索、進路相談をしやすくする。 ②授業やHR等で「未来創造室」を活用して、生徒の意識改革や学力伸長をめざす。 イ. 「樟風マップ」(3年間トータルの進路指導計画)に基づき、進路指導部と学年、系列で連携したキャリア教育を行っていく。 ①1年次より、いろいろな分野の講師を招いての講演会を開催し、生徒の進路意識を高めていく。また、1年次は産業社会と人間で、前期のガイダンス指導を徹底し系列選択のミスマッチをなくす。後期の系列別授業の強化を行い、2年次以降の系列での学習と目標とする進路のマッチングを行っていく。 ②2年次では、就職希望の生徒はインターンシップに、進学希望の生徒はオープンキャンパスに積極的に参加させ、進路実現へのモチベーションを向上させる。系列の学習内容を大学・専門学校など学校外の資源を十分に活用しながら充実させる。 ③3年次では、進路指導部と系列が連携した進路指導・就職指導を行い、今年度の面接指導・応募前職場見学参加指導を継続し、実績の向上をめざす。</p>	<p>(1) 中退防止 中退率の減少 2.0%未満 (H28: 2.6%) ア～エ. 教育相談委員会の開催回数 (H28: 12回)</p> <p>ウ. 中高連携の緊密化 (H28 出前授業6回、中学校での学校説明会5回)</p> <p>(2)(3) 進路未決定者の減少と就職決定者の増加 ア. イ. ・進路未決定者の割合 7%未満 (H28: 7.4%) ・就職内定率 95%以上 (H28: 100%) ・就職試験一次合格率 70%以上 (H28: 74.6%) ・インターンシップ参加者数 80人以上 (H28: 50人) ・大阪府中小企業家同友会との連携回数の増加 (H28: 4回)</p>	<p>(1) 中退防止 中退率は 2.7% (H28: 2.6%)。(△) ア～エ. 教育相談委員会を 10 回開催。(H28: 12回) 各学年より対象生徒についての情報が提供され、構成員で共有した。(○) ウ. 出前授業 2 回、中学校での学校説明会 3 回 (H28: 出前授業 6 回、中学校での学校説明会 5 回) (△)、生徒による母校訪問 1 回。 【課題】次年度以降も、中学校訪問を積極的に行うとともに、中高連携の緊密化やスクールカウンセラーとの連携、教育相談委員会の活性化を通じて、中退防止に努めていく。 (2)(3) 進路未決定者の減少と就職決定者の増加 ア. イ. 「未来創造室」の有効活用やきめ細やかな進路指導により進路未決定者が減少した。 ・進路未決定者の割合は 9.9% (H28: 7.4%)。(△) ・就職内定率は 98.6% (H28: 100%)。(○) ・就職試験一次合格率は 92.6% (H28: 74.6%)。(◎) ・インターンシップ参加人数 132 人 (昨年度 50 人)。(◎) ・大阪府中小企業家同友会との連携回数 2 回 (H28: 4 回)。(△) ①年間 3 回の基礎学力テストを行うなど基礎学力の充実に努めている。また、入学前の宿題を課し、R-CAP を新たに取り入れた。職業体験、業種別ガイダンス、進路講演会を実施した。 ②2年生では、インターンシップ、オープンキャンパス及び校内実習のいずれかを全員が行い進路意識を高めた。 ③3年生ではきめ細やかな指導により進路未決定者が減少した。 【課題】次年度以降も、3年間トータルのキャリア教育を推進して生徒の希望する進路の実現を図り、進路未決定者数を減少させていく。</p>
	<p>(4) 中堅私立大学進学の実現</p>	<p>(4) 複数名の中堅私立大学の合格者輩出 ア. 「未来創造室」を有効に活用する。 ①進学情報の提供を活発に行う。 ②1年次から学力生活実態調査を実施し、個々の生徒の学力状況を把握し、状況に応じた指導を行う。 ア. 「樟風マップ」に基づき、進学講習やオープンキャンパス参加の拡充等によって、生徒の意識改革や学力向上をはかる。 イ. 保護者向けの進学説明会などを経済的な面を含めて計画的に実施し、大学進学に向けて家庭の協力を得られるようにする。 ウ. 夏期休業中は、全学年で講習を国・数・英で開催する。必要に応じて社会・理科・小論文の講座も開く。</p>	<p>(4) 複数名の中堅私立大学合格 ア. イ. 大学合格実績 ・人文・理数系列及び農と自然系列において産近甲龍等の合格者輩出 (H28: 0名) ・情報系列及び工業デザイン系列において大阪工業大学・大阪電気通信大学等合格者輩出 (H28: 5名) ・福祉・保育系列において大阪樟蔭女子大学・関西福祉科学大学等合格者輩出 (H28: 3名) ・全系列において摂南大学・桃山学院大学・関西外国語大学等の中堅私立大学合格者輩出 (H28: 7名) ・進路説明会回数 (H28: 2回) ウ. 夏期講習 30 名以上の参加 (H28: 15名)</p>	<p>(4) 複数名の中堅私立大学合格 ア. イ. 大学合格実績 ・情報系列から大阪電気通信大学合格 1 名 (△) ・福祉・保育系列から関西福祉科学大学合格 0 名、大阪樟蔭女子大学 2 名 (△) ・摂南大学合格 0 名、桃山学院大学合格 2 名など中堅私立大学合格者 2 名 (△) ・進路説明会回数 2 回 (H28: 2 回) (○) ウ. 今年度も費用面を考慮して勉強会宿は実施しなかった。学校での講習を 5 日間実施した。 参加者数 24 名 (H28: 15 名) (◎) 【課題】次年度以降は保護者向けの進路説明会の内容や時期を精選し、より多くの保護者に参加してもらえるように工夫する。</p>

<p>2. 「社会人基礎力（前に踏み出す力、考え抜く力、チームで働く力）」を育成する総合学科</p>	<p>(1)公共心と規律性を備えた樟風生を育てる。</p> <p>(2)クラス活動で鍛える</p> <p>(3)生徒会活動で鍛える</p> <p>(4)クラブ活動で鍛える</p>	<p>(1) 授業規律、欠席・遅刻の減少、服装・頭髪指導・あいさつ ア. パッケージ研修や教職員研修を通じて、教職員の授業規律に関する意識改革を行う。 イ. 登校指導の充実や遅刻過多者への早朝指導及び放課後指導を引き続き徹底し、遅刻者を減少させる。 ウ. 服装・頭髪指導の学年間の基準の統一に努めるとともに、イエローカード制度の運用に関する教職員の認識を共有化して、生徒の規律性の育成を図る。 エ. 問題事象について事例検討会を開催し、問題事象への対応方法や指導方針に関して教職員全体の共有化を図る。</p> <p>(2) クラスで鍛える ア. 年間ホームルーム計画を作成し、ホームルーム活動を活性化させる。 イ. 遠足・体育祭・文化祭という行事を中心に担任間の連携を強化し、クラス活動の活性化を図る。 ウ. 保健部が中心となり毎日の清掃等の徹底を図る。</p> <p>(3) 生徒会活動で鍛える ア. 体育祭・文化祭・学校説明会などで生徒会の役割を増やし、生徒会の強化を行う。 イ. 体育祭や文化祭等の学校行事を一層活性化して、生徒の学校行事における自己達成感を高める。 ウ. 朝の挨拶運動、生徒会通信の発行等を恒常的にを行い、生徒会活動の活性化を行う。</p> <p>(4) クラブ活動で鍛える ア. クラブ活動に関する情報の発信や体験入部等の工夫を通じて1年生の新規加入はもちろん年度途中の入部者を増やすことで、加入率の増加をめざす。</p>	<p>(1) 授業規律、欠席・遅刻の減少、服装・頭髪指導・あいさつ ア～エ。 ・生徒向け学校教育自己診断「授業は規律正しく行われていると思う」の肯定感3ポイント以上の上昇(H28:52.7%) ・遅刻者数10%減少 ・懲戒件数10%減少(H28:遅刻者数1625)(H28:懲戒件数47件) ・生徒向け学校教育自己診断「先生は協力して生徒指導に当たっている」の肯定感3ポイント以上の上昇(H28:54.0%)</p> <p>(2) クラスで鍛える ・生徒向け学校教育自己診断「クラス活動は活発である」の肯定感3ポイント以上の上昇(H28:51.1%)</p> <p>(3) 生徒会活動で鍛える ・生徒向け学校教育自己診断「生徒会活動は活発である」の肯定感3ポイント以上の上昇(H28:46.1%)</p> <p>(4) クラブ活動で鍛える ・加入率45%以上(H28:43.2%) ・生徒向け学校教育自己診断「部活動は活発である」の肯定感3ポイント以上の上昇(H28:57.9%)</p>	<p>(1) 授業規律は昨年度同様、格段に良くなった。頭髪、服装違反もほとんどなくなり、遅刻数も激減して、基本的な生活習慣が確立してきた。懲戒件数は減少した。 ア～エ。 ・生徒向け学校教育自己診断「授業は規律正しく行われていると思う」の肯定感8.0%増加して60.7%(H28は52.7%)(◎) ・遅刻者数は1622(H28:1625)(○) ・懲戒件数は45件(H28:47件)(○) ・生徒指導の事例検討会の開催1回(H28:1回)(○) ・生徒向け学校教育自己診断「先生は協力して生徒指導に当たっている」の肯定感3.6%増加して57.6%(H28:54.0%)(◎) 【課題】次年度以降も現在の生徒指導体制を継続・進化させるため、キャンペーン指導週間の設定などの工夫を行っていく。</p> <p>(2) クラスで鍛える 体育祭や文化祭におけるクラスの催しはレベルが向上してきた。生徒向け学校教育自己診断「クラス活動は活発である」の肯定感7.0%増加して57.1%であった(H28は51.1%)(◎) 【課題】ホームルーム活動と生徒会活動の連携をはかるため、生徒の委員会活動をさらに活発化していく。</p> <p>(3) 生徒会活動で鍛える 生徒会新聞(壁新聞)を毎月発行している。生徒会役員選挙では複数の立候補者が出にくくなった。しかし、生徒向け学校教育自己診断「生徒会活動は活発である」の肯定感11.2%増加して57.3%であった(H28は46.1%)(◎) 【課題】生徒会活動は年々活性化している。今後もこの流れを継続し、生徒の自主的な活動を育んでいきたい。</p> <p>(4) クラブ活動で鍛える ・情報発信や体験入部等の工夫を行ったが、部活動加入率は40.2%に微減した(H28:43.2%)(△) しかし、生徒向け学校教育自己診断「部活動は活発である」の肯定感6.3%増加して64.2%であった(H28は57.9%)(○) 【課題】生徒向け学校教育自己診断の結果は増加した。部活動は年々活性化している。しかし、加入率はまだ低い水準にとどまったままである。新入生勧誘に力を入れるなど新たな対策が必要である。 【課題】進学者向けの講習を計画的・継続的に行っていく必要がある。</p>
--	---	---	---	--

<p>3. 「基礎・応用・実践力の養成」を目標に授業で鍛える総合学科</p>	<p>(1) 授業で鍛える</p> <p>(2) 7系列で鍛える</p>	<p>(1) 授業内容の充実で鍛える。</p> <p>ア. 年2回授業アンケートを実施し、振り返りシートをもとに授業改善をめざす。</p> <p>イ. 公開授業週間を通じて、教職員同士で授業観察を行い、授業観察シートを提出させる。</p> <p>ウ. 管理職による授業観察と事後指導を丁寧に行う。</p> <p>エ. パッケージ研修を行い、めざすべき授業の在り方を共有する。</p> <p>(2) 7系列で鍛える</p> <p>ア. 各系列とも①系列間のコラボレーション②地域連携③中高連携④高大連携等の形態のいずれかを実施し、生徒を鍛える場とする。</p> <p>イ. 「探究」発表大会を充実させ、系列ごとの成果を次年度に継承する。</p> <p>ウ. 系列に広報担当を設置し、系列での実践をホームページ等でリアルタイムで発信する。</p>	<p>(1) 授業力の向上</p> <p>ア. 教員の授業振り返りシートの提出率の維持 (H28:100%)</p> <p>イ. 教員の授業観察件数の増加 (H28:96件)</p> <p>エ. 教員全体の研究授業の実施 (H28:6回)</p> <p>生徒向け学校教育自己診断の学習指導の平均3ポイント以上の上昇 (H28:52.6%)</p> <p>(2) 系列の専門性と多様性の向上</p> <p>ア. 左記①～④の実施回数</p> <p>① (H28:6回)</p> <p>② (H28:118回)</p> <p>③ (H28:6回)</p> <p>④ (H28:8回)</p>	<p>(1) 授業力の向上</p> <p>ア. 7月及び12月に授業アンケートを実施。授業振り返りシートの提出率は100%であった。(◎)</p> <p>イ. 教員の授業観察件数は昨年度の96件から54件に減少した。(△)</p> <p>エ. 教員全体の研究授業は、パッケージ研修支援Ⅱの研究授業を含めて2回実施した。(H28:6回)(△)</p> <p>・生徒向け学校教育自己診断の学習指導全体の肯定感の平均は52.6%から59.5%へ6.9%増加した。(◎)</p> <p>【課題】授業規律は確実に良くなったが、教員の授業力の向上は、引き続き本校の課題である。今後も研修や授業研究を通じて教員の授業力向上を図っていく。</p> <p>(2) 系列の専門性と多様性の向上</p> <p>ア. 左記①～④の実施回数 (△)</p> <p>①系列間コラボレーション0回 (H28:6回)</p> <p>②地域連携88回 (H28:118回)</p> <p>③中高連携6回 (H28:6回)</p> <p>④高大連携3回 (H28:8回)</p> <p>イ. 校内総合学科発表会を1月に実施した。</p> <p>【課題】系列は本校の大きな特色であり、今後も新たな地域連携を開拓するとともに、中高連携や高大連携を活発に行い、専門性を高めていく。</p>
<p>4. 「共生推進教室でインクルーシブ教育」を実践する総合学科</p>	<p>(1) 共生推進教室でインクルーシブ教育を実践する</p> <p>(2) 人権教育で鍛える</p>	<p>(1) 学校経営推進費で創設したインクルーシブ・ルームを有効活用し、「ともに学び、ともに育つ」インクルーシブ教育を実践する。</p> <p>ア. 共生推進教室生徒の成長を促すことで、併せて、総合学科生徒の人権教育を推進する。</p> <p>イ. インクルーシブ・ルームを活用しての教職員研修の実施</p> <p>ウ. インクルーシブ・ルームを活用してのアクティブ・ラーニングなどの授業実践。</p> <p>(2) 人権教育で鍛えて、安全で安心な学校づくりをめざす。</p> <p>ア. 新入生のクラス開き・学年開きで共生推進教室の生徒や配慮を要する生徒の紹介を行う。</p> <p>イ. 人権HR計画に基づいて、同和問題や在日外国人問題、新しい人権問題などを人権HRで扱い、生徒の人権意識を高める。</p> <p>イ. 日常的なクラス活動・クラブ活動・授業などで、配慮を要する生徒と共に学校生活を送る経験を積み、互いの理解の促進を図る。</p>	<p>(1) 共生推進教室教育の充実で鍛えるア～ウ。</p> <p>・生徒向け学校教育自己診断の共生推進項目平均の5ポイント以上の上昇 (H28:51.8%)</p> <p>・総合学科の卒業率の5ポイント上昇 (H28:90.4%)</p> <p>・共生推進教室の一斉授業の肯定感の上昇 (H28:100%)</p> <p>・共生推進教室の企業就労100%の継続 (H28:100%)</p> <p>(2) 人権教育で鍛えるア～ウ。</p> <p>学校教育自己診断の人権教育項目の肯定感平均の3ポイント以上の上昇 (H28:52.0%)</p>	<p>(1) 共生推進教室教育の充実で鍛えるア～ウ。</p> <p>生徒向け学校教育自己診断の共生推進項目の肯定感平均は62.2%で14.2%増加した (H28は51.8%) (◎)</p> <p>・総合学科の卒業率88.8% (H28は90.4%) (△)</p> <p>・共生推進教室3年生の企業就労100% (◎)。</p> <p>【課題】インクルーシブ・ルームを有効に活用して、ユニバーサルデザインの授業実践など、インクルーシブ教育システムを構築していく。</p> <p>(2) 人権教育で鍛えるア～ウ。</p> <p>生徒向け学校教育自己診断の人権教育項目の肯定感平均は66.2%で14.2%増加した。(H28:52.0%) (◎)</p> <p>【課題】3年間トータルの人権教育計画に基づいた人権ホームルームを展開して、障がい者理解や同和問題、在日外国人問題など、さまざまな人権問題を取り上げ、今後も生徒の人権意識を高めていく。</p>

<p>5. 「地域に開かれた魅力ある学校」を目標に地域社会と連携・協力する総合学科</p>	<p>(1)地域貢献で鍛える</p> <p>(2)家庭との連携で鍛える</p> <p>(3)校内組織の連携と情報発信力の強化</p>	<p>(1) 系列やクラブ・生徒会で地域貢献</p> <p>ア. 枚岡中学校区及び縄手北中学校区地域教育協議会との連携を深め、秋の地域交流の企画に積極的に参加する。</p> <p>イ. 福祉・保育系列や農と自然系列を中心に旭町子育て支援センターや近隣の幼稚園・保育所との交流を促進し、地域への貢献を果たす。</p> <p>ウ. 農と自然系列や工業デザイン系列を中心に瓢箪山地域まちづくり協議会との連携を深め、地域への貢献を果たす。</p> <p>エ. クラブや生徒会が中心となって、地域一斉清掃を瓢箪山地域まちづくり協議会と連携しながら推進し、地域への貢献を果たす。</p> <p>(2) 学校の情報を発信し、PTA活動や学校行事への保護者の参画率を高める。</p> <p>ア. 授業参観への参画率を高める。</p> <p>イ. 体育祭や文化祭など、学校行事への参画率を高める。</p> <p>ウ. PTA活動への参画率を高める。</p> <p>(3) 校内組織の連携と情報発信力の強化</p> <p>ア. 校長がリーダーシップを発揮するとともに、首席連絡会、学年主任会議、将来構想委員会、運営委員会、職員会議の連携を強化し、各種会議と分掌・学年間が情報を共有して課題の解決にあたる。</p> <p>イ. 中高連携や学校説明会などの広報関係に力を入れ、地域から信頼される学校をめざす。</p>	<p>(1) 系列やクラブ・生徒会で地域貢献</p> <p>ア～エ. 地域連携の回数の増加 (H28:118回)</p> <p>・新規の地域連携の回数 (H28:15回)</p> <p>・生徒向け学校教育自己診断の地域連携の項目の肯定感平均3ポイント以上の上昇 (H28:49.6%)</p> <p>(2) 保護者の参画率の向上</p> <p>ア～ウ</p> <p>・保護者向け学校教育自己診断において、参画に関する肯定感の平均3%以上の上昇 (H28は45.2%)</p> <p>・学校教育自己診断の保護者提出率の3%以上の上昇 (H28は49.4%)</p> <p>(3) 校内組織の連携と情報発信力の強化</p> <p>ア. 教職員向け学校教育自己診断において、学校経営の肯定感平均の3%以上の上昇 (H28:56.5%)</p> <p>イ. 学校説明会の参加者数の10%以上増加 (H28:478)</p>	<p>(1) 系列で地域貢献</p> <p>ア～ウ・地域連携の回数は88回 (生徒会2、地域文化5、農と自然16、工業デザイン5、福祉保育14、部活動38、管理職8) (H28:118回) (△)</p> <p>・新規の地域連携の回数は23回 (H28は15回) (◎)</p> <p>・生徒向け学校教育自己診断の地域連携の項目の肯定感平均は5.0%増加して54.6%であった。(H28は49.6%) (◎)</p> <p>【課題】生徒向け学校教育自己診断の結果は少し増加した。地域連携は年々活発になっており、地元での本校に対する信頼度は確実に上昇している。生徒が地域の幼保小中学校園の児童生徒を教えるなどの企画を積極的に行い、地域から信頼される学校づくりを進めていく。</p> <p>(2) 保護者の参画率の向上</p> <p>ア～ウ・保護者の参画に関する肯定感の平均は4.2%減少し41.0%であった。(H28は45.2%) (△)</p> <p>・学校教育自己診断の保護者提出率は1.4%減少し48.0%であった。(H28は49.4%) (△)</p> <p>【課題】保護者向け学校教育自己診断の結果は少し減少した。体育祭では100名以上の保護者が見学に来られた。授業参観については、授業参観週間を設定し参加者を増やしたい。学校教育自己診断の保護者提出率を今後も上げるようにする。</p> <p>(3) 校内組織の連携と情報発信力の強化</p> <p>ア. 学校経営の教職員の肯定感平均は0.7%上昇し57.3%であった。(H28:56.5%) (○)</p> <p>イ. 学校説明会の参加者数は469名(第4回まで)であった。(H28:478)</p> <p>【課題】校長のリーダーシップをさらに発揮できるよう校内組織の連携を強化していく。学校説明会など広報活動をさらに活発にし、本校の魅力を外部に発信していく。</p>
---	--	--	---	--